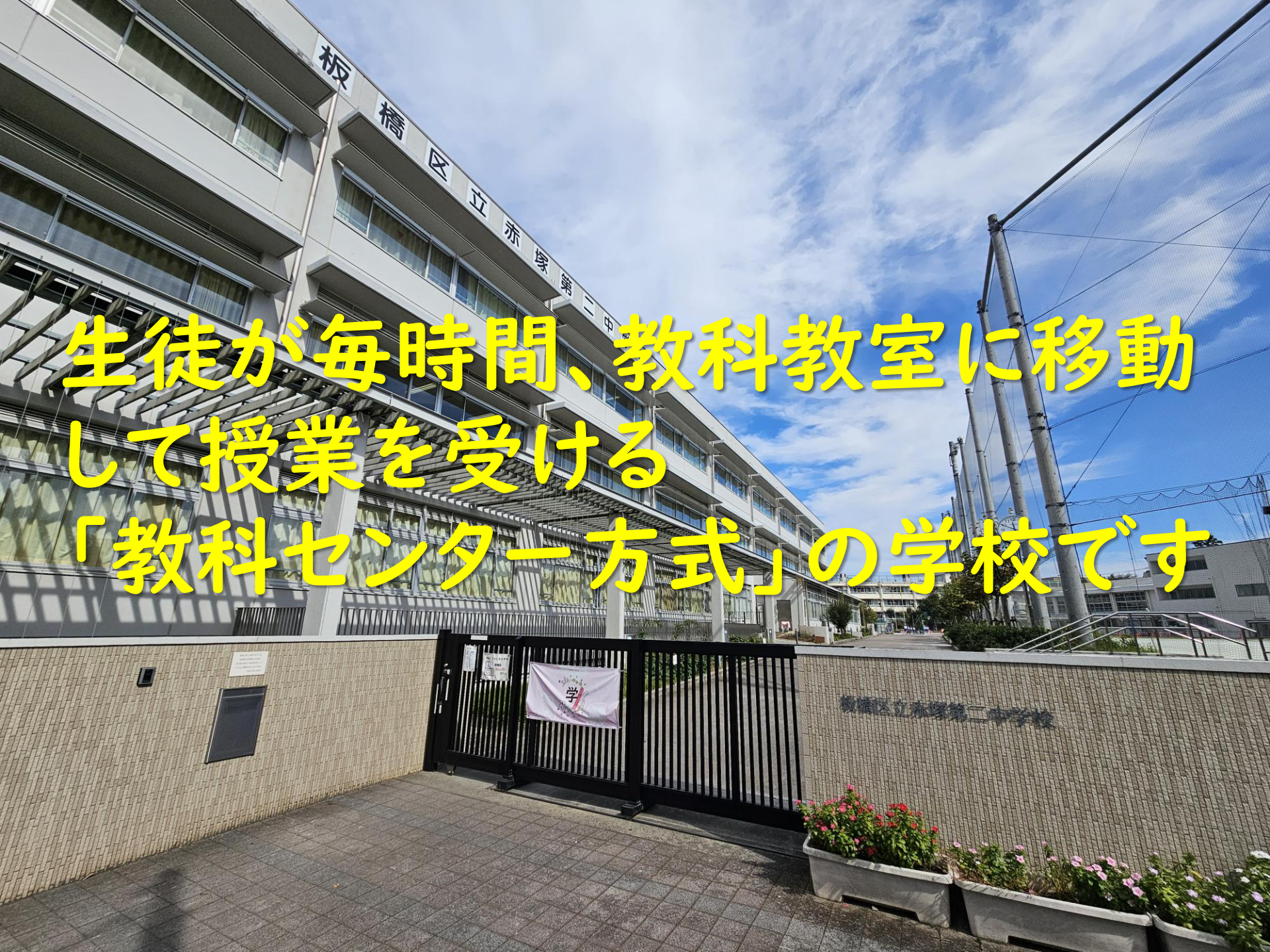
板橋区立赤塚第二中学校
道徳教育推進の共通理解



【道徳科】人生いかに生きるべきかを、教師と生徒が共に考え、語り合う時間にする。


板橋区立赤塚第二中学校
生徒が毎時間、教科教室に移動して授業を受ける
「教科センター方式」の学校です

教科センター方式の赤塚第二中学校

〇教室配置

地下：音楽室・美術室・技術科室・体育館・武道場

一階：英語科教室／9年HR

二階：国語・社会・理科教室／789年HR

三階：数学科教室／7年HR

※学習と生活が独立しながら融合できる配置

〇学びの広場

掲示・作品展示・資料ストック・語らいなど多様な学習環境が整えられ、学校全体が学びを促す空間デザイン

主体的に学習に取り組む基盤研究推進校

◇授業研究　※毎月第3週「授業見学week」

1学期　道徳科

④指導案検討→⑥研究授業→⑦振り返り

2学期　各教科　※令和8年度は道徳科

⑨指導案検討→⑩研究授業→⑪振り返り

3学期　各教科

①指導案検討→②研究授業→③振り返り

◇道徳科研究

4月　校内研修会

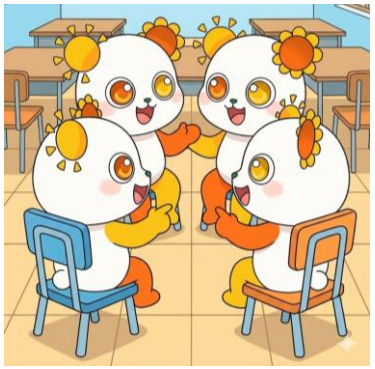
8月　全校同一教材研究・指導案検討

12月　同一教材での公開授業・合同振り返り

12月　公開授業の振り返り

道徳科を「人生いかに生きるべきかを、教師と生徒が共に考え、語り合う時間にする」ために大切にしていること。





道徳科の目標

道徳科の特質

明確な指導の意図

「特別な教科　道徳」の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，**道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習**を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別な教科　道徳編」【p.13】

〇道徳科の学習を進めるに当たっては，その特質を踏まえて，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方について考えを深める学習に意を用いる必要がある。【p.15】

〇道徳科では，生徒が「自己を見つめ」「広い視野から多面的・多角的に」考える学習活動において，「道徳的諸価値の理解」と「人間としての生き方についての考え」を，相互に関連付けることによって，深い理解，深い考えとなっていく。【p.112】

「道徳科」の特質

道徳科は，生徒一人一人が，ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，内面的資質としての道徳性を**主体的に養っていく時間**であることを理解する必要がある。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別な教科　道徳編」【p.77】

〇教師が生徒に対して特定の価値観を教え込むのではなく，教師が生徒と共に人間の弱さを見つめ合い，考え合った上で，夢や希望などを共に語り合うような姿勢をもつことが大切になる。【p.92】

生徒の声を大切にする

明確な指導の意図

①ねらいや指導内容についての**教師の捉え方を明確にする**。

②ねらいや指導内容に関連する生徒のこれまでの学習状況や実態と**教師の生徒観を明確にする**。

③使用する教材の特質や教材を生かす具体的な**活用方法を明確にする**。

道徳的価値

生徒の実態

教材の活用

明確な指導の意図

主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別な教科　道徳編」【p.79】

【道徳科】人生いかに生きるべきかを、教師と生徒が共に考え、語り合う時間にする。

生徒の声を大切にする

道徳科の特質

明確な指導の意図

自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方について考えを深める学習の実現

発問の工夫

生徒の思考を予想し，それに沿った発問や，考える必然性，切実感のある発問，自由な思考を促す発問，物事を多面的・多角的に考えたりする発問を心がける。

【指導の意図】

書く活動の工夫

書く活動は、生徒が自ら考えを深めたり，整理したりする機会として，重要な役割をもつことから，必要な時間を確保するとともに，活動を厳選する。

【話す活動重視】

話し合いの工夫

生徒相互の考えを深める中心的な学習活動。生徒が友達の考え方についての理解を深めたり，自分の考え方を明確にできるよう，効果的な話し合いを行う。

【脱発表・顔－顔】

板書の工夫

教師の伝えたい内容や構造を示すなど，生徒の思考を深める板書を行うとともに，板書を生かした話し合いを行う。

【ストック情報】

ＩＣＴを活用する。

【フロー情報】

【終末】終末では、学習を通して考えたことや新たにわかったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする時間を十分に確保する。※共有する。

【道徳科】人生いかに生きるべきかを、教師と生徒が共に考え、語り合う時間にする。

生徒の声を大切にする

道徳科の特質

明確な指導の意図

自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方について考えを深める学習の実現

- 発問の工夫
- 書く活動の工夫
- 話し合いの工夫
- 板書の工夫

【終末】終末では、学習を通して考えたことや新たにわかったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする時間を十分に確保する。 ※共有する。

【諸様相を育てる】

道徳的判断力：それぞれの場面において善悪を判断する能力
道徳的心情：道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情
道徳的実践意欲：道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度：道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

【公開授業】人生いかに生きるべきかを、教師と生徒が共に考え、語り合う時間にする。



「考え、議論する道徳」の確立

特質＋指導の意図

★学習過程の時間管理
- 簡潔な導入
- 話し合いの時間確保
- 振り返りの時間確保
- 書く活動より
  話し合う活動重視

★生徒の声を大切にする
- 傾聴し、問い返す
- 生徒の考えをつなぐ

★道徳教育の要としての役割
- 他の教育活動等を補い、深め、発展させる

道徳科　授業づくりシート（教材の読みから授業構想へ）　作成者

道徳科の授業づくりは、教材を深く読むことから始める。それは、そこに描かれた「人間の心の深い声を聴く」こと。その読解の深さによって、授業の骨格が見えてくる。それが深い学びのある授業をつくる。

1 教材の粗筋を掴む（「誰が、何を、どうした」話なのか。）➡ ねらいとすべき道徳的価値の焦点化

2 「書かれていること」と「道徳上の意味」を掴む　➡ どこで、何を問うべきかの明確化

学年	年	教材		出典	
教材の粗筋					

書かれていること（話の筋）	書かれている意図（道徳上の意味）

授業づくりシート

＜中心発問の前に＞　中心発問を考える前に押さえたいこと

＜中心発問＞　授業の山となる場面でどう問いかけるか！どんな意見が予想されるか！

＜中心発問の後に＞　中心発問で考えたこと（人間としての生き方、道徳的価値）をさらに深く考える

＜主題と内容項目＞

主題名		内容項目	

＜ねらい＞

＜板書＞

授業記録　令和　年　月　日（　）　学校名＿＿＿＿＿＿＿＿

対象学級　第　年　組　名　授業者＿＿＿＿＿＿＿＿

時間	教師の発言	児童生徒の発言
		教　卓

記録者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　（NO.　）

研究授業記録シート

道徳科　生徒の学習状況の記録

作成者＿＿＿＿＿＿＿＿

＜**演習１**＞　授業中の生徒の学習状況を見とる。

1　担当する生徒を一人決めて、この授業中の生徒の学習状況を観察する。

2　発言がない生徒、話し合いに消極的な生徒もいる。できる限りその生徒の肯定的な面を捉える。

教材名　「　　」　内容項目　「　　」

対象生徒　　年　組　番　名前

学習場面	聞いている・読んでいる・考えている・話している・書いている様子
導入	
展開	
終末	

【道徳科】授業の振り返りポイント

【大切にすべき指導のポイント】

道徳科の目標及び特質を踏まえた上で、指導者が明確な指導の意図をもって指導する。

◇道徳科の目標

自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習

◇道徳科の特質

道徳性を主体的に養っていく時間

◇明確な指導の意図

①道徳的価値の捉え方

②生徒の実態を明確にする。

③教材の活用方法を明確にする。



道徳科に関する評価の基本的な考え方

【評価の視点７】

◆生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている

②自分と違う立場や 感じ方、考え方を理解しようとしている

③複数の道徳的価値の対立が生じる 場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている

◆道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

④読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている

⑤現在の自分自身 を振り返り、自らの行動や考えを見直している

⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている

⑦道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別な教科　道徳編」【p.112～】

授業に対する評価の基本的な考え方

ア　学習指導過程は，**道徳科の特質を生かし**，道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ，人間としての生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また，指導の手立ては**ねらいに即した適切なもの**となっていたか。

イ　発問は，生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い，道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど，**指導の意図**に基づいて的確になされていたか。

ウ　**生徒の発言を傾聴**して受け止め，発問に対する生徒の発言などの反応を，適切に指導に生かしていたか。

エ　自分自身との関わりで，物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるための，**教材や教具の活用**は適切であったか。

オ　ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は，**生徒の実態**や発達の段階にふさわしいものであったか。

カ　特に配慮を要する生徒に適切に対応していたか。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別な教科　道徳編」【p.117】

【生徒の姿】
〇評価の視点7に示された姿を見取ることができたか。

【指導者の姿】
〇簡潔で効果的な導入を行うことができたか。
〇生徒の発言を傾聴し、キーワードなどを板書することができたか。
〇生徒の発言を傾聴し、適切な問い返しを行い、発言の真意等を確認することができたか。
〇中心発問では、多様な意見を引き出す発問をすることができたか。
〇中心発問後は、主題が深まるような発問をすることができたか。
〇ワークシートの発表会から脱却し、語り合う活動になるよう支援することができたか。
〇教師が様々な視点を提示することで、話し合いがさらに深まるよう支援することができたか。
〇登場人物等の確認、発問・回答（キーワード等）を丁寧に板書し、板書を見ながら考え、話し合えるようにすることができたか。
〇授業を振り返る時間を確保することができ、振り返りを共有することができたか。

研究主題と指導過程

〇授業への意欲（学習への導入）
〇主題への問題意識（価値への導）
〇教材への関心を（教材への導入）

〇教材の範読
〇生徒の実態と教材の特質を押さえた発問（中心発問とその前後の発問）
〇教材に描かれている道徳的価値に対する生徒一人一人の感じ方や考え方を生かした学習
〇問題解決的な学習、体験的な学習
〇必要に応じてICT等の活用

〇授業を振り返り、確かめたり、深く心にとどめたり、課題を考える。

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	各教科、領域および全ての教育活動での既習内容を掘り起こす導入（３分）		
展開	主体的・対話的な学びをめざして教師も生徒も一緒になって共に考え、語り合う。書く活動を入れない。話し合うための板書の工夫（３７分）		
終末	じっくり振り返り書く活動を中心とする。自己調整の視点で振り返る（１０分） ①どんなことを考えたか ②どんな課題があるか ③どう生かすか ④考え方や生き方がどう変わったか。 思いつく項目だけで　数名の発表の共有		

【公開授業】人生いかに生きるべきかを、教師と生徒が共に考え、語り合う時間にする。



各教材ごとにご指導、ご助言いただきますよう、お願いいたします。